

対エルサルバドル共和国 国別援助方針

平成 24 年 4 月

1. 援助の意義

1992 年の和平合意による内戦終結後、国連の監視・検証の下、エルサルバドルの和平プロセスは順調に進展し、「国連平和維持活動の成功例」、「民主化のモデルケース」として国際社会から高い評価を得ている。

1993 年に発足した中米統合機構(SICA)ⁱは、中米地域の統合・地域連携の強化に取り組んでいる。中でも SICA 本部があるエルサルバドルは、域内市場統合を積極的に推進し、中米統合において中心的な役割を果たしている。また、国際場裏において、同国はおおむね我が国の立場を支持するなど、良好な二国間関係が築かれている。

一方、同国は、天然資源に乏しく主要産業を持たないという経済的制約の中で、持続的な経済成長に向けた健全な経済運営を行うという課題を抱えている。また、大地震やハリケーンなどの災害に度々見舞われており、自然災害に対し脆弱である。

このような状況の中で、同国に対する支援は、良好な二国間関係の構築にとどまらず中米地域との関係の発展につながり、さらには、地域統合を通じ中米全体の安定と平和の促進にも資する意義がある。

2. 援助の基本方針（大目標）：自立的・持続的な開発の促進

エルサルバドル政府の取り組んでいる重要開発課題のうち、我が国は、同国の自立的・持続的な開発を促進するため、経済の活性化と雇用拡大を中核として支援を行うとともに、環境保全に対する同国の取組への支援にも努める。

3. 重点分野（中目標）

（1）経済の活性化と雇用拡大

エルサルバドルの東部地域は、地理的に中米の中心に位置し、3か国にまたがるフォンセカ湾にも面することから、交通・物流の要衝として重要な位置を占めているが、長年の内戦の影響で開発が遅れている。特定の資源や主要産業を持たないエルサルバドルの経済を活性化し、ひいては中米全域の経済成長を促すには、同国の産業基盤を整備し物流機能を向上させることが重要である。このため、これまで我が国が支援した空港、港湾、橋などの機能を最大限に発揮するための支援や人材育成を行う。また、地場産業振興や、農業製品の国内販売の促進に向けた支援を行うことで、地域産業の確立並びに、雇用の創出を図る。

（2）持続的な開発のための防災・環境保全

エルサルバドルでは、特に近年気候変動の影響により風水害・土砂災害が多発し、自然災害への脆弱性の克服が課題となっている。我が国は、防災教育を中心とした「コ

コミュニティ防災」と同国防災担当部門間の「組織連携」の両視点に立ち、我が国の知見を生かした防災能力の強化に向けた協力を行うとともに、気候変動対策など、環境保全に向けた取組を支援する。

4. 留意事項

中米諸国は環境・災害リスクなどにおいて共通の問題を抱えているが、エルサルバドルには前述のとおり SICA 本部が所在していること、また、地理的な利点（中米の中心に位置）から、ほかの中米諸国に対する広域協力が展開できる環境も整っている。その為、例えば中米防災センターⁱⁱにも着目して中米全体の広域協力を念頭に置いた案件形成に留意する。

（了）

別紙： 事業展開計画

ⁱ SICA : Sistema de la Integracion Centroamericana

ⁱⁱ CEPREDENAC : Centro de Coordinacion para la Prevencion de los Desastres Naturales en America Central

SICA の下に設置された中米域内防災機関。同センターの最高意思決定機関である代表審議会は、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ 6 か国の国家防災責任機関からなる。同センター事務局はグアテマラに所在。